

地域のつながりとボランティア

地域の力を発揮

河川の増水とともに消防署、消防団をはじめ、自治会、自主防災組織により、深夜のしかも情報が錯綜、混乱した中、土嚢積み等の防災活動や住民の避難誘導等、懸命な活動を行なった。また、近所、隣同士の声掛けや助け合いによって、無事に避難できた方も多かったと言われている。地域住民のつながりの強さや団結力が発揮された場面であった。一人一人が自分の出来る範囲で自助、共助を行った結果、揖保川流域では一人の犠牲者も出なかったことは、今後の防災体制への参考になるのではないだろうか。



住民の声

近所の方が大声で呼んでくれた。出たら大水で、その方達に助けもらった。近所の大切さを改めて感じた。

避難所は窮屈であったが、みなで協力し合い、明日は帰れるかもと毎日過ごした。

消防団・自治会・自主防災組織が一致団結し協力しあった事で人命被害がなかったものと確信する。